

授業概要

春期は博物館・美術館等で実施される実習に先立って、実践的な知識と技術の習得を目的とする。特に実際の現場では、いかなる問題を抱えながら、どのような対応をしているのか、といった視点から実習に際して必要な事柄に対して即効性の高い応用力を養えるような実技中心の内容とする。秋期は実習終了をうけ、各館で体験してきたことを中心に、1人10分間程度の報告をしてもらう。その報告をテーマに受講生全員でのディスカッションを行いたい。また、博物館で行われている各種事業について具体像を検討していく。その上で事業の実際を知るために博物館への見学を2回程度実施する。

授業計画

第1回	春期ガイダンスー実習館の確認と検討	第16回	秋期ガイダンスー実習報告に向けての検討
第2回	博物館活動概要	第17回	博物館の資料管理-保存と修復
第3回	展示と陳列	第18回	博物館の広報
第4回	特別展示・企画展示と資料借用の実際	第19回	演習Ⅶ 博物館事業広報案の検討
第5回	演習Ⅰ 特別展示・企画展示案の検討	第20回	博物館の出版
第6回	資料取扱いの基礎概要	第21回	演習Ⅷ 刊行物項目案の検討
第7回	演習Ⅱ 資料の取扱い(卷子装)	第22回	博物館の渉外対応(警備・来館者対応)
第8回	演習Ⅲ 資料の取扱い(掛軸装)	第23回	博物館のマネジメント
第9回	演習Ⅳ 資料点検調書の作成	第24回	博物館の教育・普及事業とイベント
第10回	演習Ⅴ 資料梱包・移動	第25回	演習Ⅸ 教育・普及事業案の検討
第11回	資料撮影基礎概要	第26回	博物館見学Ⅲ(教育・普及事業/イベント)
第12回	演習Ⅵ 資料撮影	第27回	博物館見学Ⅳ(特別展示・企画展示)
第13回	博物館見学Ⅰ 施設・設備、資料収蔵庫	第28回	報告Ⅰ 博物館実習報告①
第14回	博物館見学Ⅱ 常設展示・平常展示	第29回	報告Ⅱ 博物館実習報告②
第15回	実習予定館園概要報告・実習上の諸注意	第30回	実習総括ーディスカッションー
		第31回	博物館学芸員の未来・レポート諸課題提出

到達目標

実習予定館園の概要について各自で基本的事項を把握し、目的意識を抱くように努めること。また博物館園での実習前に、学芸員として勤務するのに必要な最低限度の知識と技術の習得を目指す実践的な内容とする。実習終了後は、現場での経験や知識をもとに、各博物館で行われている諸事業などを検討して個々人が実際に学芸員に採用された場合に、問題意識を持てるような事象をテーマにディスカッションを行いたい。

履修上の注意

本年度での具体的な実習先について調整済(必ず大学教務課に対し、本年度に実習希望の旨を伝えていること)の者を履修対象とする。また授業は演習などの内容上、各学期の初回・最後の回などは月曜日に大学で行い、その他の回は校外授業として土曜日に振り替えて、博物館内での実施とする予定。その際、1日の授業は連続する2コマ程度で行う。詳しくは各学期最初に授業予定の日時について掲示するので必ず参照のこと。

予習復習

本講座は可能な限り受講生の実習先を考慮して、博物館業務に即した実践的な内容とし、学芸員の主業務である展示計画、教育・普及事業、各事業企画案などの検討と作成を行う。学生には能動的姿勢を求めたい。

評価方法

学則に定める授業出席回数を前提として

① 見学等での小課題	→10%(博物館見学2回で各5%)
② 実習日誌・実習レポート(大学所定)	→35%(日誌30%、レポート5%)
③ 実習内容報告(本講座秋期に実施)	→20%
④ 期末での課題(授業課題レポート)	→35%(特別展示・企画展示案10%、広報案10%、刊行物構成案5%、教育・普及事業案10%)

これら4つを総合的に判断して評価する

テキスト

使用テキストは特に指定しない。授業各回で資料を配布する予定。また事前に予習したい学生には次のテキストを参考にしてもらいたい。加藤有次・椎名仙卓編『博物館ハンドブック(改定版)』雄山閣出版、2004年 ¥3,990、佐々木利和・松原茂・原田一敏編『新訂博物館概論』放送大学教育振興会、2007年 ¥2,300+税